

十勝教育研究

巻頭言

十勝教育研究所
副所長
秦 公一

教育現場への期待

九神ファームめむろ
サービス管理責任者
貫田 尚洋

我が歩みを語る

退職教職員の紹介

長い歴史を閉じる学校

音更町立南中音更小学校
校 長
水口 一

日本人学校より

プラッセル日本人学校
教諭
野田有希子

わたしの授業実践

本別町立仙美里小学校
教諭
大浦 泰貴



わたしの学級経営

音更町立音更小学校
教諭
高田三十三



共に学び共に育つ

大樹町立大樹中学校
教諭
中野 浩光

日々徒然

士幌町立士幌小学校
教頭
佐竹 宏子

日々徒然

新得町立富村牛中学校
教諭
高橋 悠也

GIGAスクール構想

～どう学びが変わるのでか～

特集

卷頭言

十勝教育研究所
副所長

秦公一

(幕別町立札内東中学校 校長)



コロナ禍での 教育を振り返つて

この1年余り、学校現場は経験したことのない事態の中で、日々、試行錯誤と創意工夫に迫られる教育活動をしてきたのではないでしょうか。

昨年2月28日、北海道の小・中学校等は、新型コロナウイルス感染蔓延防止のため臨時休業となり、年度末まで継続されることになります。そのため、児童生徒にとって大事な節目となる卒業式は、時間短縮や出席者制限などでの実施を余儀なくされました。4月に、学校は一旦再開されたものの、12日の「北海道・札幌市緊急共同

宣言」で、再び、長期にわたる臨時休業に入ります。

休校中の影響について、長崎大学は、8月、同県教職員に学校教育への影響を調査しました。それによると、子どもは「生活リズムの乱れ」や「運動不足」、保護者は「学習の遅れ」や「在宅の過ごし方の不安」、教師は「学校行事」や「子どもたちの健康・安全の確保」との報告がありますが、これは、どこの学校も同じだったのです。

このように、誰もが強い不安やスト

レスなどを抱える状況でしたが、各学校は家庭訪問や分散登校などの工夫をしながら、児童生徒を見守ってきました。6月1日、国の緊急事態宣言解除を受けて、学校は再開後、児童生徒の健康と安全を第一義に、三密の回避、手指消毒、マスク着用など「新しい時代の生活様式」を徹底しながら、学びの保障に全力を尽しました。

まず、教育課程の見直しを図り、多くの学校が、長期休業期間に登校日を設定しました。

さらには、授業時数を確保するため、行事の中止や規模縮小の対応もされました。児童生徒の心身の成長を図るために行事が数多くあり、苦渋の選択を迫られたことだと思います。

新型コロナウイルスが感染拡大する前は、全てが、いつも通り、当たり前にできると考えていました。

ですから、コロナ禍によるマイナス面の影響ばかりに目を向けてしまうことが多かつたかもしれません。

しかし、「ピンチはチャンス」と言われるよう、この事態をプラスに転換した発想が、今、求められています。

そもそも「学校とは何か」というこ

とを問い合わせ返し、「教育の本質」を考えることが、その原点になると想います。見直す大きな手がかりに、「教育基本法」があります。

その第1条には、「教育の目的」が「人格の完成を目指し」「国家及び社会の形成者」を育成すると明記されています。これは、「教育は人間づくり」と言い換えることができるのではないかでしょうか。

このことを考えると、学校教育は、授業を通して学力の定着を図ることはもちろん、さらには、豊かな情操と道徳心を培うこと、自主自律の精神や勤労を重んずる態度を養うこと、自他の敬愛と協力を重んずることなども必要となります。

いまだに、新型コロナの収束が見えず、来年度も厳しい状況が予想され、多くの制約のもとでの学校運営や教育活動となるかもしれません。

しかし、教育の目的を踏まえると、

学校の存在意義は、「知徳体」のバランスのとれた教育活動です。

令和3年度は、この生命線を軸として、今年度の取組と経験を活かしながら、一層の創意工夫を図っていきたい

March.2021

特集 GIGAスクール構想

～どう学びが変わらるのか～

INDEX

21

20

12

10

8

4

2

1

◆日本人学校より

ブラッセル日本人学校
教諭 野田有希子

◆長い歴史を閉じる学校

音更町立南中音更小学校

校長 水口 一

◆我が歩みを語る
退職教職員の紹介

① 小学校の実践 鹿追町立鹿追小学校

② 中学校の実践 清水町立清水中学校
教諭 松岡 優徳
教諭 所 速美

◆特集 GIGAスクール構想
「どう学びが変わらるのか」

九神ファームめむろ
サービス管理責任者 貢田 尚洋

◆教育現場への期待

大

◆目次

コロナ禍での教育を振り返つて
十勝教育研究所
副所長 秦 公一

苦手からのスタート外国语
本別町立仙美里小学校
教諭 大浦 泰貴

◆連載 わたしの授業実践
「安心して過ごし、自分も周りも
大切にできるクラス」を目指して
音更町立音更小学校
教諭 高田三十三

◆連載 わたしの授業実践
苦手からのスタート外国语
本別町立忠類中学校
教諭 大浦 泰貴

◆学校めぐり

幕別町立忠類中学校
校長 佐々木典郎

◆日々徒然
時を超えるつながり

コロナの中でもキラリ
新得町立富村牛中学校
教諭 高橋 悠也

◆編集後記

◆教育情報
研究所情報／研究発表大会

◆連載 共に学び共に育つ
「人間関係をうまくつくりにくい子ども」との接し方
大樹町立大樹中学校
教諭 中野 浩光

◆連載 わたしの授業実践
「安心して過ごし、自分も周りも
大切にできるクラス」を目指して
音更町立音更小学校
教諭 高田三十三

◆編集後記

◆教育情報
研究所情報／研究発表大会

◆連載 共に学び共に育つ
「人間関係をうまくつくりにくい子ども」との接し方
大樹町立大樹中学校
教諭 中野 浩光

◆連載 わたしの授業実践
「安心して過ごし、自分も周りも
大切にできるクラス」を目指して
音更町立音更小学校
教諭 高田三十三

教育現場への期待



九神ファームめむろ

サービス管理責任者

貫田 尚洋 さん

九神ファームめむろは、芽室町を福祉の街にしたいという思いから、「誰もが当たり前に働いていける町づくり」をテーマに、2013年に開所した。芽室町には、それまで障がい者が働く場所はなく、初の就労継続支援A型事業所（※1）となつた。事業所が障がい者と雇用契約を結び、一般就労するためには必要な知識や能力の向上のために必要な訓練等の支援をしている。今回は、サービス管理責任者の貫田さんに、九神ファームの事業内容や御自身の福祉への思い、教育現場への期待についてお話を伺つた。

九神ファームめむろでは、一人一人と雇用契約を結び、最低賃金を保障している。社会保険も全て完備しており、毎日6時間半×約20日間働くことができ、毎月12万円弱のお金を得ることができている。今まで引きこもりだった方やB型事業所（※1）に通っていた方なども、「今では使えるお金が増え、更に貯金もできるようになった」と喜

んでいるそうだ。

本社は愛媛県新居浜市にある「クック・チャム」というお惣菜屋さんで、四国を中心に約80店舗の路面店を開設している。そこで販売されているポテトサラダの「種」を、九神ファームの工場で日々製造している。また、4月から11月にかけて自社の圃場を使い、メークイン、カボチャ、大根などを育てており、収穫物の一部を自社で加工・販売している。

事業の一番の目的は、「障がいのある利用者が、最終的に一般就労すること」だそうだ。「そのためには、まず利用者が一般就労するために必要な技術を身に付ける必要がある」と言う。その習得の場としてあるのが、工場での生産活動とコミュニティレストランでの施設外就労である。

生産活動は、工場でのジャガイモの一次加工を主としている。ここでは、毎日15名ほどが働いている。皮むき、カット、真空パック作業等、一連の行

障がい者、健常者、高齢者が差別もなく 誰もが当たり前に働いて生きていく。

程を行い、チルドポテトを作る。「みんなが協力して一つの物を作る大切さ、さらには働くことの大切さを学ぶことができることは、利用者にとって貴重な経験になる」と貫田さんは言う。

また、施設外就労では主にコミュニティレストラン「ばあばのお昼ご飯」で勤務している。「そこで働くことでより、調理技術を身に付けることができるきます。また接客を通して、人と接することの大切さを学ぶこともできます。普段の生産活動では経験できないことを通して、スキルアップに繋がります。こうした『働くことの大切さ』を彼らが身をもつて経験することができます」一般就労へ繋がると確信している貫田さんは利用者への期待に胸を膨らませている。

障がいがある方々との関わりを通して、「一番に感じることは、圧倒的な経験不足です。今まで、彼らは経験したくても働く場所や機会に恵まれませんでした。経験不足がゆえに、やればできる技術が身に付いていないことが

日々ありました。でも、その場所や機会を提供するだけで、利用者は可能性を生かすことができます」と感じているそうだ。

最後に、教育現場に期待していることを尋ねると、「特性よりも、何でも経験させることができます」と語ってくれた。

「障がい者、健常者、高齢者が差別も無く当たり前に生きていく町をつくることがコンセプトです。それを実現するために九神ファームは存在しています」と貫田さんの挑戦はまだまだ続く。

※1

就労継続支援A型事業では、雇用契約を結び賃金が支払われます。1日実務勤務時間は4～8時間程度です。それに対して、就労継続支援B型事業の場合、雇用契約を結ばないため、賃金ではなく成果報酬の「工賃」が支払われます。50歳に達した方が対象で、労働時間の縛りが少ないので障がいや体調に合わせて自分のペースで働くことができます。



上：レストランでの接客の様子。
下：九神ファームにおける9つの神様（キーキャッシュン）。社会に貢献したいという思いが込められている。



じゃがいもの皮むきをする利用者の様子。利用者は、農作業だけでなく、加工や接客など、様々な業務にあたり、充実した毎日を送っている。

NPO法人 プロジェクトめむろ

問い合わせ先

- ◆ 電話 0155-67-1417
- ◆ E-mail pjmemuro@gmail.com
- ◆ ホームページ <http://project-memuro.com/>

特 集

GIGAスクール構想 ～どう学びが変わるのでか～

GIGAスクール構想の実現に向けて

P.4～7

- (1) 小学校の実践～鹿追町立鹿追小学校 教諭所 速美～ P.8・9
(2) 中学校の実践～清水町立清水中学校 教諭 松岡 優徳～ P.10・11

GIGAスクール構想とは、「児童生徒向けの1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、校正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想」です。しかし、社会のデジタル化が進む中で、現在日本の学校におけるICT環境は自治体間の格差も大きく、諸外国に比べても整備が遅れているのが現状です。

◆GIGAスクール構想とは？

GIGAスクール構想についての質問じゃな。わしがお答えしよう。

GIGAスクール構想の実現へ

1人1台端末は令和の学びの「スタンダード」

多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現へ

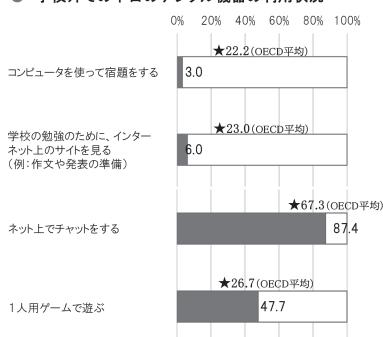


文部科学省

博士！4月になると、GIGAスクール構想が始まるそうですが、そもそもそれって何のことなんですか？



● 学校外での平日のデジタル機器の利用状況



（色帯は日本の、★はOECD平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計）

デジタル機器は普及しておるのに、利用方法がゲームやチャットに限られておつて、学習で使われていないのがもったいないのう。

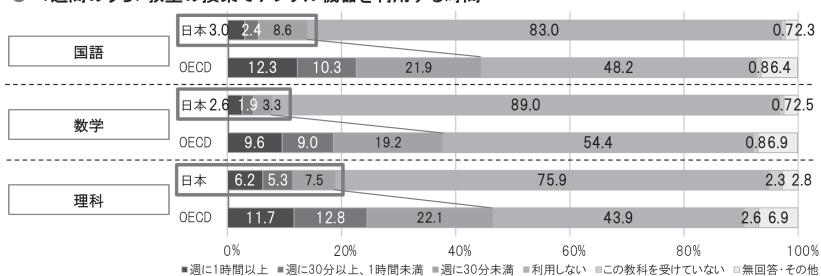


PISAの読解力の平均得点が下がった要因として、PC使用型調査に変わったことがあげられておる。子どもたちがPCを駆使して問題を解決することに不慣れだったんじや。

外国と比べて、授業でこれだけ差があると、子どもたちの学力にも差ができるんじゃないですか？



● 1週間のうち、教室の授業でデジタル機器を利用する時間



OECD 生徒の学習到達度調査 2018 調査より

そこで、教育効果の高いICT機器を整備し、学習の場面に活用することで、教師や子どもたちの力を最大限に引き出すことが目標として掲げられています。

◆授業にICTは必要なの？

確かに、PCを授業で余り使っていません。でも、PCの活用はこれからの中もたちにとって必要なんですか？

まずは、子どもたちが担うこれからの中を予想してみるとよいぞ。なかでもこの動画が分かりやすいぞ。



「Society 5.0」
政府広報より



つまり、これからの中を見据え、子どもたちに必要な力についていましょう



産業や社会生活に取り入れられることで、私たちの生活は劇的に便利で快適なものになっていくと技術が高度化し、あらゆる

スマートフォンなどに代表される最新技術と情報社会は私たちの生活を非常に便利なものにしてくれています。この大きな社会の変革は、社会構造さえも変えてしまうことからソサエティ5.0と呼ばれています。特に人工知能（AI）やビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化し、あらゆる

スマートスピーカー】
【リモート会議】
【産業用ロボット】

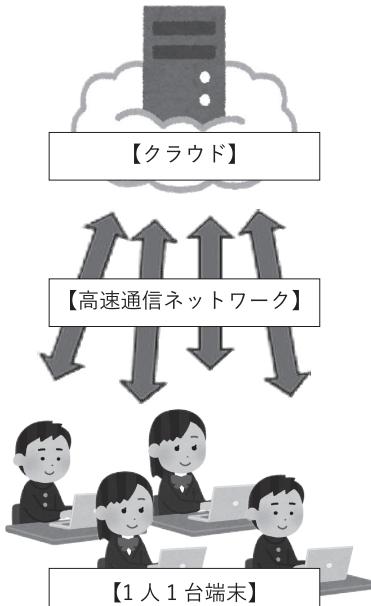
予想されています。しかし一方で、この急激な変化を前に、「AIを創り使いこなす人と使われる人で大きな格差が生まれるのでは？」「AIに仕事を奪われたりはしないか？」といった漠然とした不安の声が多いこともまた事実です。未来の社会を担う子どもたちにどのような力が必要なのか、未知の部分だけに社会全体で考えていくことが大切だと言われています。ただし、ソサエティ5.0の劇的な変化が訪れたとしても、人間らしく豊かに生きていくために必要な力は、現在、学習指導要領に掲げられている「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」がベースになると考えられています。また、新学習指導要領では、従来の言語能力の育成に加え、新たに情報活用能力の育成を改訂のポイントとして打ち出しています。従来の基礎的な学力を大事にしつつ、グローバル化・情報化が進む社会で、子どもたちの学びに格差を生まないためにもICT機器を活用し、情報活用能力の育成を図りたいところです。

◆ICT環境の整備は？

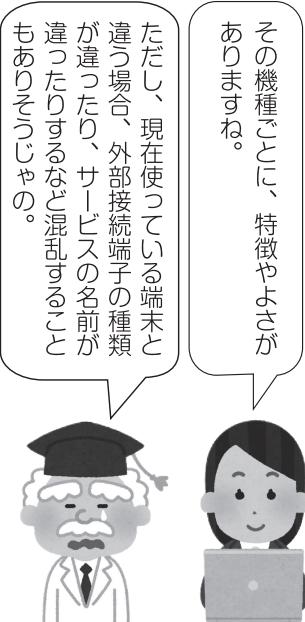
でも、うちの学校のPCは古くて、動作も遅いし…。本当に使えるのかしら？

そこは大丈夫じゃ。すでに国の予算に盛り込まれ、環境整備が進められてある。

この事業は令和元年度の予算で計上されており、当初は令和5年度までに「1人1台端末」「高速通信ネットワーク」「クラウド」を学校ごとに整備する予定でした。それが新型コロナウイルスの感染拡大により、1年前倒しなくなつたことで、現在、各学校における環境整備が急ピッチで進められています。現在は、ハード面の環境整備だけでなく、先行事例の紹介や人材育成のための研修会などの実施、ソフト面でも準備が進められています。



◆整備される端末の仕様は？

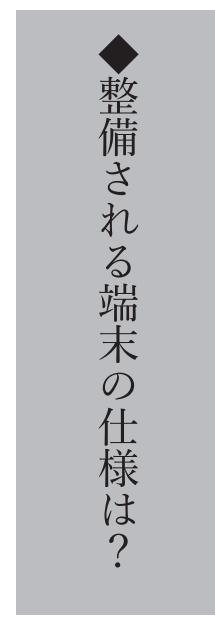


ただし、現在使っている端末と違う場合、外部接続端子の種類が違つたり、サービスの名前が違つたりするなど混乱するなどありますね。

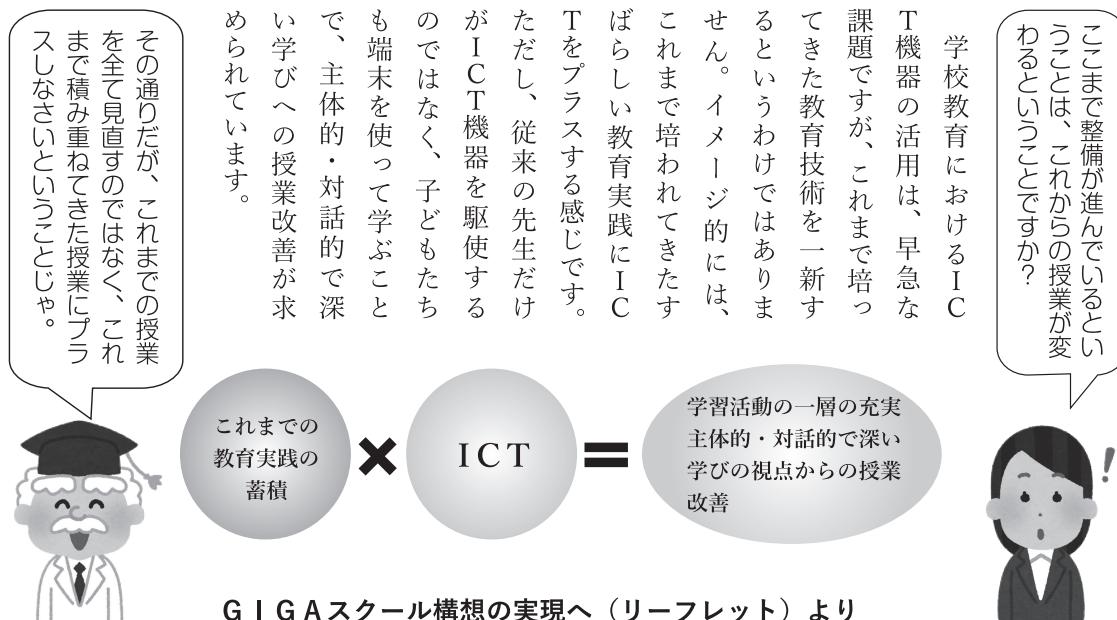
その機種ごとに、特徴やよさがありますね。

Windows、Google Chrome OS、iPadOSの3種類が候補に挙がっています。それぞれ使い方やサービスが違うので、導入する際は事前に情報を集めておくようにしましょう。

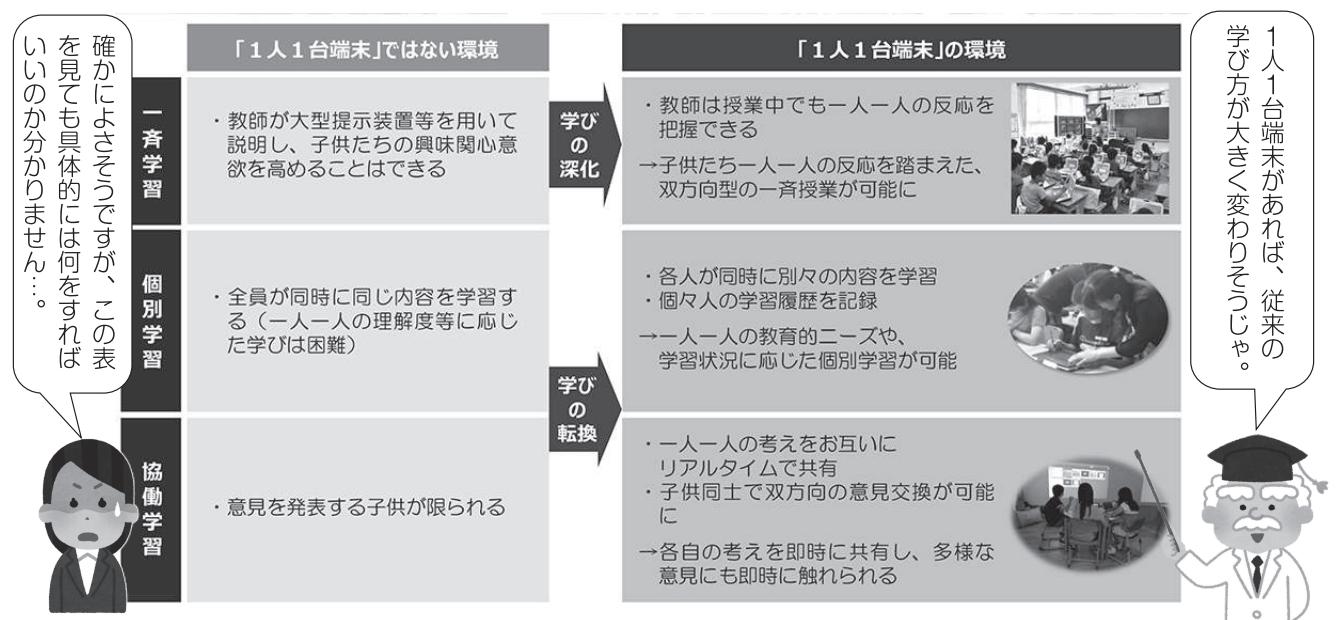
整備される端末の仕様は、メーカーによって多少差はあるものの標準仕様が定められています。標準仕様のポイントとしては、タッチパネル対応ですが、ハードウェアキー・ボードも接続されていること、ストレージは64～32GB、メモリは4GBと一般的のPCと比べて容量が小さいものの、クラウドに接続して使うことで、PCの立ち上がりや使用感はスマートフォンやタブレットPCといった感じです。重量も1.5kg未満と低学年の子どもたちも扱いやすいよう工夫されています。その他にも、QRコードも読み取れるインカメラ・アウトカメラが付いており、様々な学習に対応できるようになっています。現在、整備されつつある端末の仕様は、Microsoft



◆授業が変わるつてこと？



GIGAスクール構想の実現へ（リーフレット）より



◆授業への活用は？

それなら、文部科学省のHPには、いろいろな取組例が載っているので参考にしてみてはどうじや？



現在、1人1台端末を使った授業で考えられているのは、一斉学習の場面と個別学習の場面、そして協働学習の場面の3つです。この中で、特に効果を発揮すると考えられているのが、個別学習と協働学習の場面です。従来の学習では、学校用PCを割り当てて使っていますが、パソコン室まで取りに行く時間や起動する時間などを考慮し決して使い勝手のよいものではありませんでした。しかし、1人に1台端末が割り当たることで子どもたちは、順番を気にせず、いつでも好きな時に学習に使うことが可能になります。



文部科学省のHPには、このような資料がたくさん掲載されています。特に、「StuDX Style」には、新しい取組が一杯じゃ！



文部科学省HP
「学校におけるICTを活用した学習場面」より



文部科学省HP
「StuDX Style」サイト

身が見返すことも可能です。この他にも、個別に動画を使った学習に取り組むことも可能です。
協働学習で例を挙げれば、新聞作りで効果を発揮します。従来であれば、子どもたちが顔を突き合させて交互に書いていた新聞をそれぞれの端末で同時に作業することができます。この方法だと交互に書く必要がなくなり、待ち時間の短縮や記事の修正も容易になります。

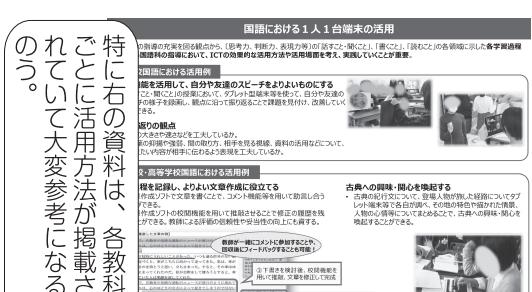
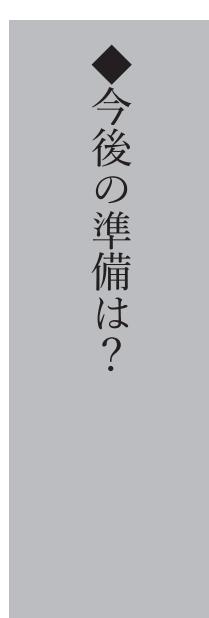
こういう具体的な事例があると、授業に生かしやすいイメージがつかみやすいですね。



文部科学省のHPには、このような資料がたくさん掲載されています。特に、「StuDX Style」には、新しい取組が一杯じゃ！

次ページでは、先行的に取り組んでいる小中学校の実践例を紹介していきます。

様々な資料を基にGIGAスクール構想について紹介してきましたが、どこも正直なところ手探り状態です。今後は、GIGAスクール構想の実施に向けて、指導者養成の研修会やアドバイザーによる説明会が開催される予定です。しかし、昨今の世情を鑑みれば必ずしも計画通りに物事が進むとは限りません。ぜひ、GIGAスクール構想が始まるこの機会に、各校で子どもたちにどのような力を付けるべきか、またどのようにして身に付けるのか共通理解を図ることが大切です。

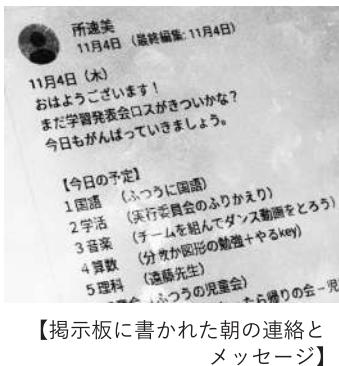


文部科学省HP
「各教科等の指導におけるICTの効果的な活用について」より



鹿追町立鹿追小学校 教諭 所 速美

2 普段から使う！



1人1台端末は、子どもたちにとっても先生方にとって初めてのこと…。先生が全ての端末の機能を把握していないくても一緒に使っていく中で、使い方を見付けていけばよいのではなかどうか。

1人1台端末を使うに当たって必要なところは「スペシャル感を出さない」ことです。鉛筆や消しゴムと同じように、普段使いできるような教具になるよう心掛けています。普段から使うようにする手立てとして掲示板を活用しています。端末の掲示板に、当日の予定や連絡、コミュニケーションを図るために簡単な質問（例「今日の調子は？」）を記入します。そして、登校してきた子どもたちが、掲示板を確認し返事を返すという方法です。このやり取りを習慣化することで、子どもたちも端末は毎日使うものという認識をもちます。

また、使い方も子どもたちと相談して決めるようにしています。例えば、文章の入力方法もキーボード入力を基本的に奨励していますが、タッチペンで書いても音声入力してもよいことにしています。大切なのは、教師が「こう使います」と決め付けないで、その時、その場に合った使い方を子どもたちと一緒に考えることです。子どもたちにも端末の使い方を考えさせることで、子どもたちの発想も広がっていきます。

グループごとにダンスを発表する協働学習では、端末を音源やカメラとして活用したり、メッセージを使って別の教室にいる先生にアドバイスを求めたりと様々な活用方法を考え、実践していました。



【端末を音源、カメラとして使用する子どもたち】

3 教室環境の工夫

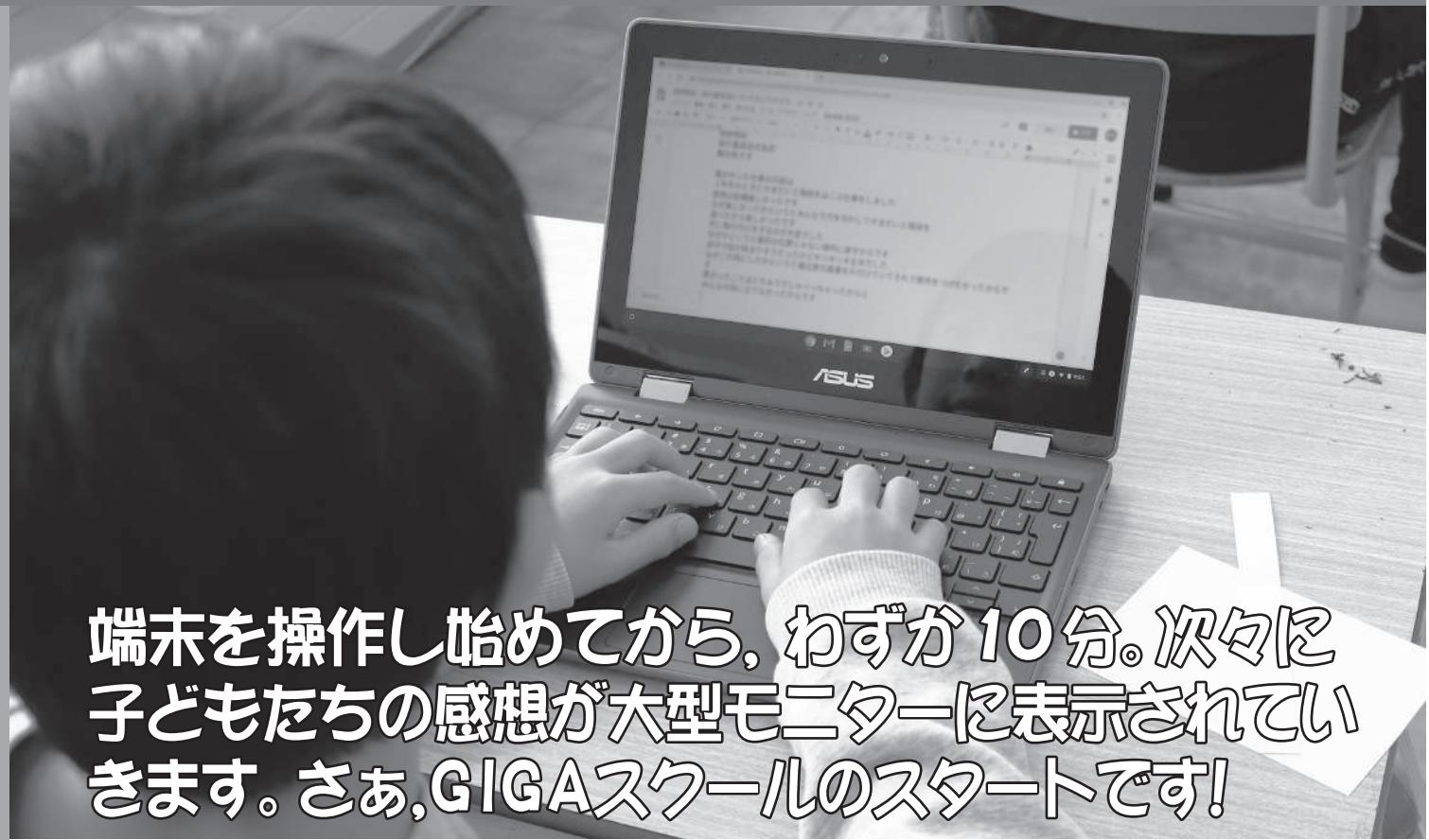


1人1台端末を効果的に使うために、大型モニターの設置は必要不可欠です。本来なら字が大きく表示できるプロジェクターが望ましいのですが、現在はモニターを2台置いて対応しています。また、今回貸出された端末はGoogle Chromeですが、普段職員室で使っているのはMicrosoft WindowsのPC、そして今まで授業で使っていたのがiPadのタブレットです。どれか1つにまとめることができればいいのですが、それができないので現在は、HDMI切り替え器と分配器を使って使い分けています。



とにかく使ってみよう

～1人1台端末の普段使いを目指す～



端末を操作し始めてから、わずか10分。次々に子どもたちの感想が大型モニターに表示されていきます。さあ、GIGAスクールのスタートです!

1 学びで使う！

鹿追小学校では、1人1台端末を積極的に授業に導入しています。PC端末には、機能が一杯！ちょっとした工夫で様々な授業で使うことができます。

「実行委員会の振り返りをするよ。課題シートに記入して提出してください。300文字以上で時間は15分です。それでは、始めてください」という指示で、子どもたちは一斉に端末に打ち込み始めます。

1人1台端末のよさは、Wi-Fiで端末同士がつながり、データのやり取りができるところです。作成した課題シートは、クリック1つで先生に提出され、教室前方の大型モニターに表示されていきます。データで提出してくれると管理が簡単で、学級通信に載せたいときもすぐに活用できます。キーボード入力を始めた頃は大変でしたが、慣れるにしたがって入力のスピードも速くなりました。子どもたちの反応もおおむね好評です。端末による文書作成は、子どもたちの「書くこと」への抵抗感を減らしてくれます。なぜなら、文章を校正する際に、消しゴムで消したり、また書き直したりする手間が省けるからです。ただ、変換キーを押すと簡単に漢字に変換してくれる分、漢字の習得率は落ちる傾向にあるので、そこは注意が必要です。



算数の時間は、授業後半の習熟問題で端末を使います。現在、使っている計算問題ソフトは、問題を自分で選択でき、自動で採点してくれ、結果を先生の端末に送ってくれる大変効率的なソフトです。また、自分でも学習の結果をグラフや表で振り返ることができます。ただし、途中の計算式はノートに書くように指導しています。なぜなら、ソフト自体は楽しいのですが、クイズのように適当に答えることもできるのでノートとセットで指導します。

【途中の計算式をノートに書く子ども】

2 主題的な学びへ

端末は、デジタル世代の子どもたちにとって使い勝手のいい便利なツールです。端末を活用した際の教育的効果には様々なものがあります。例えば、今までプリントを全く提出しなかった子どもが、計算式の入力されたファイルを目撃、「これならできる！」と実験結果や考察まで入力し、提出するようになりました。また、個人やグループの考えを大型ディスプレイに表示し、クラス全体で情報を共有したり、特定の子どもの画面を全員で共有したりすることができます。これにより、挙手して発表することが苦手な子どもの考えを授業者が把握できます。さらに、子どもも自分の考えが全体で認められると、学習内容についてだけでなく、人前で発表することへの自信につなげることができます。

端末を使用することで得られる効果は学習への関心を高めるだけでなく、創造性も高めることもできます。社会科では、課題に対して自分の考えをまとめ、録画したものを作成しています。録画機能を使うと、興味・関心が高まるだけでなく、授業者の予想を超える発想や伝えるための工夫を見せます。さらに、共有フォルダに保存されている自分や友達の作品を見ることが可能になります。指示がなくても協働で作業したり、よりよい作品ができるかと試行錯誤したりするなど、自分たちで考え方判断する力が高められています。

3 端末の使用ルール

タブレット本体、キーボード、タッチペンは教室の保管庫に保管しています。使用の際は、教科担当の子どもが職員室にある鍵で解錠します。施錠の際は、タブレットの数と、充電コードにつながっているかを確認しています。タブレット本体は保管庫の収納中ケーブルにつなぎ、充電を行います。ただし、バッテリー寿命を延ばしたり、機器の故障を防いだりするため、夏休みなどの長期休業期間中は、充電せずに保管しています。

子どもには、年度始めに「タブレットの使い方」について指導します。授業とは関係のないサイトを閲覧するなどが分かった場合には注意しますが、使用制限などを設けたくないため、決まりを守り正しく活用するよう指導しています。今まで大きな問題が発生したことではありません。今後は、家庭に持ち帰る際についての決まりについて検討していくかもしれません。

※「タブレットの使い方」や取扱いの詳細については、十勝教育研究所HPにてご確認ください。

勉強が苦手な子どもの関心を高めたり、子どもの創造性を高めたりする可能性がある！？



個別に作業をしながらも教え合っています

【教師から送られたファイルを開き、必要なデータを入力する様子】



名前キーが付けられています

子どもに配布されている「タブレットの使い方」に挙げられている項目

- ・タブレット使用の目的と制限
- ・使用場所と時間
- ・保管方法
- ・健康保持
- ・ネット犯罪被害の防止
- ・メールでの送信やサイトへの投稿、クラウドサーバへのアップロードも含む
- ・ソフトの使用
- ・データ共有
- ・その他



ICTだからできることがある

～子どもも教師も「やってみる！誰でもできる！」を目指す～



大人より子どもの方が使いこなすのは早いもの。1人1台端末を効果的に活用するために、まずは機能を知り、使ってみることが大事です！

1 校内研修での取組から授業へ

3年前に各教室等に無線LAN環境が整備され、1人1台タブレット端末の活用がスタート！今ではほぼ全ての教科で活用されるようになりました。

清水中学校に設置されているタブレットは、学習活動ソフトウェアSKYMENU Classの機能が備わっています。1人1台端末があることによって「どんな活用が効果的なのか」と1人で考えていても、簡単に答えは出ません。そこで、研修日の時間の後半20～30分間で実技研修を実施し、先生方に実際に触ってもらって、手軽に利用してもらえるようにしました。それぞれの教科において、どのような場面で、どんな活用ができるかをイメージできたと先生方に好評です。

例えば、家庭科や美術科では、授業者が作業工程を録画した動画を作成し、子どもたちに配布しています。子どもたちは、先生方の説明が終わった後やそれぞれの作業途中でも、自分の必要なタイミングで動画を確認することができます。やるべきことを確認するだけでなく、言葉や絵の説明だけでは理解できなかったことについても、具体的なイメージをもち学習を進めることができます。それにより、より具体的な課題を設定することができるなど、教育効果が高いようです。今では、先生方の協力もあり、ほぼ全ての教科で活用されるようになりました。

苦手な先生もいると思いますが、子どもも大人も使ってみることが大事だと改めて感じています。自分が普段使い慣れている端末以外の使い方を新たに覚えることに抵抗がある指導者の方もいると思います。しかし、デジタルネイティブ世代の子どもたちにとっては、ほとんど関係ありません。どのタイプの端末やソフトでも、すぐに使いこなすことができます。「ついていけない」と諦めないでください。定年間近の私でもできたのですから。

長い歴史を閉じる学校



校長
水口一

昭和7年創設



音更町立南中音更小学校



1 学校の歴史

南中音更小学校は昭和7年春に着工し、11月11日竣工と同時に河東郡中音尋常高等小学校所属南中音更特別教授場として開校。以来、89年の歳月が流れ、栄えある伝統を築いてきた。この間、学舎から卒立った児童数は700余名を数え、各地で活躍する多くの優秀な人材を送り出し、母校の名を高めている。しかし、近年の児童数の減少により、苦渋の決断ではあるが、令和2年度をもって、89年の歴史を閉じることになった。

2 特色ある教育活動

総合的な学習の時間や生活科の一環として、全校で「農園活動」を行っている。畑起こし、整地、肥料入れ、除草、さらには種・苗植え指導等は保護者・地域の方々に全面的な協力をいたしている。今年は、じやがいも、に

んじん、たまねぎ、かぼちや、とうもろこし、だいこん、トマト、きゅうり、さつまいも、まめ等たくさんの作物を栽培した。秋には最後の収穫祭を開催し、保護者と共に喜びを分かち合った。また、3年連続で「ジャンボかぼちや」を育て、収穫したかぼちやにペイントして、ハロウイン時期に役場へ提供したり、学校前に飾つたりして、お世話になった地域への感謝を表した。

3 閉校に関わる行事

年度当初より、閉校記念事業協賛会を中心に、地域、保護者、学校が協力して様々な事業を計画していたが、新型コロナウイルス感染症により予定していた事業が開催できずに苦労した。しかし、感染防止対策を図りながら、できることを精一杯行い、子ども・保護者・地域の思い出となる事業を実施することができた。

- (1) 閉校記念植樹
グラウンド西側に桜の木10本と子どもたち作成の看板を設置した。

- (2) 畑アート作成

保護者の小麦畠跡をキャンバスに、地域の方々がトラクターを駆使し、縦190m、横540mの巨大な畑アートを作成した。

- (3) 南中スポーツフェスティバル
運動会に代わるイベントとして小学生・保育所・保護者・地域の方々が集まりスポーツイベントを実施した。最後に全員で記念風船を高く放し、閉校に向けての思い出を刻んだ。
- (4) 閉校記念南中花火大会
南中音更の夜空に閉校記念として子どもたちが選曲した曲に合わせて30分ほどの花火を打ち上げた。
- (5) 閉校記念式典
2月6日に閉校記念式典が挙行され、子ども・保護者・地域の方々・卒業生・旧職員が一堂に集い、南中音更小学校との別れを惜しんだ。



トを作成した。

日本人学校より



ベルギー：ブリュッセル



ベルギーの首都ブリュッセルは、「小パリ」とも称される人口約120万人の美しい都市です。EUやNATOの本部もあり、欧州の交差点と言われることもあります。公用語が3つあり、首都ブリュッセルでは、フランス語とオランダ語の併記が義務づけられています。移民も多く、公用語に限らず多言語が行き交う文化の交差点です。



教諭
野田有希子

ブラッセル日本人学校

ブラッセル日本人学校は、小学部224名、中学部55名、計279名（2020年9月現在）の中規模校です。

ベルギーでは、12歳未満の子どもは一人での外出が認められないため、保護者と一緒に登校したり、スクールバスを利用したりしています。中学生以上になると、一人でメトロなどを使って登校している子どももいます。11月頃になると、朝はまだ暗く天候もさえません。そんな中でも元気に登校している子どもたちを毎日校長先生が正門で出迎えています。地域の方たちにも挨拶をしていて、最近では日本語で挨拶をしてくれる人もいるそうです。

(1) 「Bonjour!」「Hello!」からの国際交流

本校では、語学学習「会話」の時間を大切にしています。小学部低学年はフランス語、中学年以上はフランス語か英語を選択することができます。中学年までは、毎日20分間、「会話」の時間が設定されていて、様々なアクティビティを通して、自然に語学を学ぶことができるよう工夫されています。授業中以外にも、廊下や職員室で講師の先生たちに会うと、子どもたちから「Bonjour!」「Hello!」と挨拶をしたり、会話をしたりしています。子どもたちの日常にはいつも多言語、多文化があり、国際交流が繰り広げられています。



(2) 小中合同の行事から

本校には小中併設校だから行うことができる2大合同行事があります。一つは運動会です。小学校1年生から中学校3年生までが協力し合い、一つの行事をつくり上げていきます。中学生は、学校全体を統括するという責任感をもち、小学生は、中学生の姿を目標にしながら、自分たちの演目や係の仕事に全力で取り組んでいます。もう一つは合唱祭です。本校では、地域の教会を会場に毎年10月に行っています。各学年がある程度の期間をかけて練習し、教会という神聖な雰囲気の中、ピアノの音と歌声に耳を傾けます。どちらも、幅広い年齢層で行われることで、お互いの力を伸ばす場となっている大切な行事です。



(3) 学校って楽しいね♪

今回の新型コロナウイルス対応で、昨年4月末からオンライン授業が始まりました。友達に会えない日々が続きましたが、やっと9月から通常登校が再開しました。オンラインで毎日お互いの顔は見ていましたが、やっぱりみんなでいると楽しい!!毎日学校に来たい！子どもたちからそんな言葉をたくさん聞きました。当たり前な学校生活がとても楽しいもので、大切な時間だったのだと子どもも大人も改めて感じる貴重な機会となりました。



わたしの 授業実践

~苦手からのスタート
外国語~

本別町立仙美里小学校

教諭 大浦泰貴

■はじめに

仙美里小学校は全校児童27名で、低学年が単式学級、中・高学年が複式学級の学校です。子どもたちはみんな明るかで、学年の垣根もなく仲がよい、そのような学校で今年度から高学年の担任を務めることになりました。

高学年では今年度から外国語が教科となりました。教科書を使い、読み書きも行うようになりました。その中で、子どもたちが楽しみながら学ぶため自分はどのように授業を作つていいだろうかと振り返り、英語が苦手な私が、外国語の授業を組み立てる中で気を付けていることについて紹介させていただきます。

■「話す」こと

「話す」に関する学習は、学習指導要領の中でも「やり取り」と「発表」という2つの領域にまたがります。しかし、私が意識している「話す」はそのどちらでもなく、「口慣らしをする」ということです。方法は様々で、単に教師やCDの音声を復唱すること

もあれば、ゲームの中に組み込んで自然と多くの回数を口にするということもあります。実際、ゲームの方が子どもたちの反応がよく、そのため、前段階の復唱練習を頑張ることもあります。これまでの外国語活動でも、ゲームを通して英語に触れる場面はたくさんあったかと思います。かるた取りやビンゴゲーム、お店ごっこ等々、ゲームの仕方は様々です。とにかく夢中になつて口を動かすことがゲームを通して話すことのよさです。こうして、たくさん話すことのメリットは多くあると思います。

一つ目は、日本語の中にはない音に慣れることです。舌の動かし方や口のすぼめ方等は、日本語との違いが見られます。ですから、子どもたちは筋肉の動かし方として、その発音ができるないのです。そこで、とにかくたくさん話してみると、その言葉だけではなく、様々な英語で使う口の動かし方に慣れていきます。また、自分で言つた言葉は自然と耳に入つてくるので、聞き取りにも慣れる事ができます。

そして、もう一つはそうして慣れていくことで、子どもたちにとって英語に対する抵抗感がなくなることです。学級の子どもたちは、春先にはまだ英語での対話や発表には声も小さく、消極的だったよう思います。それは算数や国語の時のように「よく分からない」とことからくる抵抗感だったと思います。しかし半年が過ぎると、外国語の授業の中で多くの言葉を話すことで発声にも慣れて、自信をもつて



子どもたちが自信をもつて
外国語に向かうためにも「話す」ことを意識した授業を。

協力して授業を進めるために 略案を用いて打合せを行う。

仙美里小学校には、今年度外国語の巡回指導教諭が配置され、毎時間授業を見に来てくれています。実質初めて外国語を授業する私にとって、とても頼りになる存在です。年度当初は、実際に模擬授業をやつてもらい、外国語の指導法や複式での「ずらし」方を教えてもらいました。他にも、その授業でのねらいや活動のポイント、子どもが陥りやすい失敗などを教えてもらったり、毎回の授業の相談に丁寧に乗つてもらつたりしました。「これが乘つてみると便利だと思って」と教材についても、次々と提案・準備してくれます。外国語について経験の浅い自分にとっては、本当に頼もしい存在です。

話すための技術習得が全てではありませんが、話せるようになることで、できることはとても増えているます。外国语活動のときからも大切にされてきていることですが、子どもたちが自信をもつて外国语に向かうためにも「話す」ことを意識して授業を考えています。



■巡回指導教諭とJTE

仙美里小学校には、今年度外国语の巡回指導教諭が配置され、毎時間授業を見に来てくれています。実質初めて外国语を授業する私にとって、とても頼りになる存在です。年度当初は、実際に模擬授業をやつてもらい、外国语の指導法や複式での「ずらし」方を教えてもらいました。他にも、その授業でのねらいや活動のポイント、子どもが陥りやすい失敗などを教えてもらったり、毎回の授業の相談に丁寧に乗つてもらつたりしました。「これが乗つてみると便利だと思って」と教材についても、次々と提案・準備してくれます。外国语について経験の浅い自分にとっては、本当に頼もしい存在です。

話すための技術習得が全てではありませんが、話せるようになることで、できることはとても増えているます。外国语活動のときからも大切にされてきていることですが、子どもたちが自信をもつて外国语に向かうためにも「話す」ことを意識して授業を考えています。

他の学習でもそうですが、特にその学習に対して造詣の深い方が指導に関われば、子どもたちの理解も深くなります。そういう意味でも、お二方の助けが子どもたちの学びに深くつながっていると思います。

これからも子どもたちが伸び伸び学習できるよう、私もたくさん学んでいきたいと思います。

が、子どもたちは7人です。英語に限らず、一人一人に目が届き、子どもたちも先生に声が掛けやすいというのは少人数の大きな利点です。はじめは不安なことが多い、すぐ「先生」と呼んでもいた子も、最近では自分で考えるようになりました。そんな子どもの成長は私にとって大きな励みになります。

■おわりに

巡回指導教諭やJTEなどたくさんの大人が教室にいる外国语の時間です



わたしの 学級経営

～「安心して過ごし、自分も周りも
大切にできるクラス」を目指して～

音更町立音更小学校

教諭 高田 三十三



子どものやる気と安心感を育むための言葉掛け。



※撮影令和元年夏

■はじめに

私のを目指すクラスは、「安心して過ごし、自分も周りも大切にできるクラス」です。そのため、「多様性を認め合える人間関係づくりすること」「みんなで協力して生活しようとする『つながり』のある学級集団づくりをすること」を特に意識するようにしています。

■子どものやる気と安心感を育むために

どの子も大切にされている、頑張りを見つめてくれている、と感じられるような声掛けや具体的な支援をしていくことが、子どもと教師との関係性をつなぎ、子どものやる気や安心感を育んでいくと考えています。そのため意識していることは2つです。

(1) 感情の理解の支援

子どもたちの中には、自分の気持ちをうまく表現できない子もあり、そのことによりトラブルが起こることもあります。

そこで、伝えたい気持ちに寄り添つて、うまく伝えられないことを言語化したり、意味付けたりすることで、子どもたちが自分の感情や行動を理解していくことにつながればと思っています。

(2) 自分らしさを受け止めるための支援

子どもたちは日々の遊びや学習の中で、友達と関わり合って生活しています。低学年ほど、自分の感情を言葉や動作で伝えにくく、相手の感情を表情や言葉から察することが難しい様子が見られます。高学年くらいになつてく



ると自分を客観視し、他者との違いに気付くようになります。そして、できないことや友達と違うことに対する自己否定的に捉え、自己肯定感が下がることがあります。だからこそ、低学年のうちから子どもたちが自分の感情を理解したり、自分の行動の意味を確認したりできるような声掛けや具体的な支援を行っていくことが大切だと感じています。

日頃の関わりの中で、子どもたちにできるだけ多くの肯定的なメッセージや励ましの言葉を掛けられるように意識しています。

クラスを仲間にするための「つながり」をつくる意図的な取組。

■みんなで協力して生活しようとする「つながり」のある学級集団づくり

幼少の頃の交友関係から離れられなかつたり、特定の友達としか関わら

なかつたりする様子が見られることがあります。学級という同じ空間にいるがら、壁が存在しているようなこともあります。クラスを仲間にするための意図的な取組が必要です。

(1) 自分の感情にぴったりの言葉を伝える言葉掛け

「一緒に遊びたかったんだね」などと、言葉にできない本人の感情を言語化して伝える。「『仲間に入れて』と言うと伝わるね」と、よりよい言葉を具体的に示す。

(2) 子どもの行動を意味付けたり、価値付けたりする言葉掛け

「叩いたのは、自分がどうしたらよいのか、分からなかったんだね」と、子どもの気持ちを具体的に認めてあげる。

(3) 自分らしさに気付く（リフレーミング）言葉掛け

「私、何をやっても遅いんです」という言葉に対して、「とても慎重なところがあるんだね」と伝える。短所と捉えるのではなく、視点を変えて、自分らしさとして受け止められるように言い換える。

(4) 自尊感情を育む言葉掛け

・Iメッセージ「～してくれたんだね。安心したよ」「上手に声をかけてくれたんだね。ありがとう」を送り、安心感をもてるようにする。

・プラスメッセージ「できた」「できない」の結果だけでなく「～まではできているね」と経過や達成度を示し、自分の頑張りを認められるような声掛けをする。

・「あなたなら、きっとここまでできると思うよ」と目標を示すことで、自己効力感を育てる。

【自己の感情や自分らしさの理解のために意識している言葉掛け（例）】

(1) 席替え後の活動

と称して挨拶を行い、グループトークやミニゲームを行います。ミニゲームでは、グループで協力して取り組む内容にして、穏やかな雰囲気でその後のグループ学習ができるようになります。

(2) 授業でのペア活動、グループ活動

授業の中でペア活動やグループ活動の時間をとることが難しいことがあります。また、グループでの話し合いでも学習を深めていくためには、一齊指導で学習を深めていくよりも難しい面がありますが、子どもが自分の意見や考えを発信できる場面をできるだけ設定しています。お互いに考え方を聞き合って新たな発見をしたり、考えが深まります。また、子どもたちの課題である人間関係を構築する力を育んでいくという一面を考えて、ペア活動やグループ活動などは、大切にしたい時間です。

■おわりに

子どもたちが学校という場で過ごす中で、「理解し、支えてくれる仲間をつくる」ことができるよう、子どもたちをどう変えるのかではなく、自分自身がどう変わるとかを常に考えて、これからも日々研さん励みたいと思います。



共に学び共に育つ

～「人間関係をうまくつくりにくい子ども」との接し方～

■まずは子どもを「受容」することから

学級担任をしていると、様々な性格の子どもと出会います。その中には担任が人間関係をうまくつくりにくいと感じる子どももいます。そのような子どもと接するときに私が大切にしていることは、「受容」です。「受容」とは、子どもがあるがままに受け入れることです。「先生は説教しかしない」など、担任との人間関係でうまくいっていない子どもは、否定的な感情をもつている場合が多くあります。まず、この「心の壁」を取り除かなくては、次の段階に進めません。

そして、子どもと話すときには、「聴くこと」や「うなづくこと」を大切にしています。具体的には、「そうか」とか「大変だったんだね」などの言葉掛けです。否定する言葉は使いません。

例えば、遅刻して登校した場合も、最初は、「朝ごはん何食べた?」というように、遅れた原因を突然聞かないようにします。「トースト食べた」「そうか」など、子どもの気が楽になる会話をします。いきなり根掘り葉掘り聞くと、子どもの心が委縮してしまいます。



大樹町立
大樹中学校
教諭
中野 浩光

■その子に合った「対決」の重要性

次に「対決」を行います。この場合の「対決」とは、その子どもに適切な指導をすることです。叱ることではありません。その子どもの立場で指導することが大切なのです。「指導」というと、一方的で高圧的に聞こえますが、問題を解決するために一緒に考え、置かれている状況を客観的に判断できるようにしてあげるのです。「質問」や「提案」を繰り返しながら、その子の状況に合った「対決」を心掛けています。「受容」だけ、あるいは「対決」だけなら、子どもの心は離れてしまうと思います。

■「受容」と「対決」のバランスを大切に

「先生は本当に自分のことを考えててくれている」という感覚を大切にすることが肝要です。いざというときに、子どもと関わることができるように、日頃から信頼関係を構築すること。そして、「受容」と「対決」のバランスを大切に、リアルタイムで揺れ動く心の状態を察知して指導していくことで、振り向いてくれる子どももいるはずです。そのため、粘り強く関わっていきたいと思っています。

1/7
(木)

北海道教育研究所連盟共同研究推進委員会

【実施方法】Web会議システム

北海道教育研究所連盟共同研究推進委員会は、全道の教育研究所から研究所員が集い、共同研究を行うものです。今年度は、共同研究推進委員会が、全3回開催されました。研究主題は、「学びに向かう力の育成に向けた指導と評価の在り方」で、本年度は3年次研究の2年目になります。今年度は、主体的に学習に取り組む態度の評価や、実践事例の作成・収集に力を注ぎました。

例年であれば、北海道立教育研究所にて会議が開催されるはずでしたが、昨今のコロナ禍を鑑みてWeb会議システムによるオンライン会議となりました。



教育情報サイト

北海道教育研究所連盟 指導案バンク

北海道教育研究所連盟

メニュー

- 連絡窓の概要・事業計画
- 研究会・研究発表大会
- 資料請求
- 研究会報一覧
- キヤノンネット
- リニア
- 研究会報、研究会等で活用できる資料
- 連絡窓のPDF
- ①学びに向かう力の育成に向けた指導計画
- ②研究会等の実践

お問い合わせ
北海道教育研究所連盟事務局
〒060-0834
北海道江別市文京台東町42
tEL.011-386-4517
dokenren@hokkaido-c.ed.jp

指導案バンク

①学びに向かう力の育成に向けた指導計画
作成

②研究会等の実践
収集

上記の共同研究を受けて、北海道教育研究所連盟のHPでは、研究を推進していく中で作成された指導案や各教育研究所が研究・収集した優れた実践を「指導案バンク」に掲載しています。北海道教育研究所連盟のHPから、指導案バンクをクリックしていただくと、「①学びに向かう力の育成に向けた指導計画」と「②研究会等の実践」という2つのタイトルが出てきます。現在は、35本の実践例が収録されており、今後も継続して収集されるそうです。

今年度、十勝教育研究所連絡協議会共同研究で作成した単元デザインも指導案バンクの中に掲載されています。ぜひ、ご覧ください。

ホームページ URL
<http://www.dokenren.hokkaido-c.ed.jp/>

QRコード



十勝教育研究所

表大会

オンライン開催

協力員研究

令和3年2月4日・5日

十勝教育研修センター



協力員研究については、理論提案の後、小学校道徳科・中学校特別活動（学級活動）1本ずつの授業実践を紹介しました。それらの実践では子どもたちにしなやかな心を育む研究として、道徳科における思考ツールと特別活動におけるソーシャルスキルを活用した指導の工夫を取り入れました。



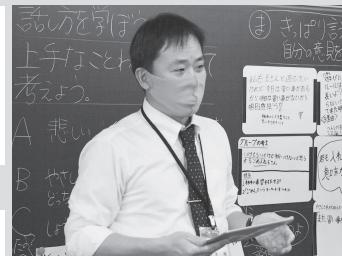
協力員研究実践発表

実践発表者

授業者 大橋 一博
芽室町立芽室中学校
第2学年 道徳科・特別活動



授業者 杉澤 諭
幕別町立幕別小学校
第6学年 道徳科・特別活動



参加者アンケートより

- ・子どもたち個々の思いや考えを可視化することの重要性や有効性を学んだ。
- ・思考ツールやソーシャルスキルは有効なので、活用したい。
- ・思考ツールの活用が目的にならないよう留意しつつ発表を基に、個人及び本校でも活用する機会を増やしたい。

「思考ツールを活用した自己の客観視に関わる実践例やソーシャルスキルを活用した成功体験の積み重ねに関わる実践例」はQRコードからダウンロードできます。



ブレイクアウトルームでの協議

ください。校内研究や日常の授業実践に御活用いただければ幸いです。



令和2年度

研究発



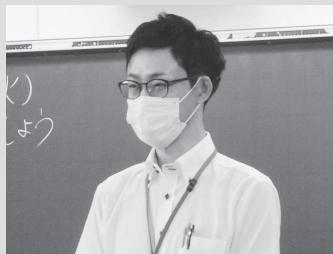
今年で24回目となる十勝教育研究所発表大会を、約150名の先生方に御参加いただき、盛会裏に終えることができました。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からWeb会議システムを活用したオンラインでの開催とし、勤務校から参加できるようにしました。

研究協議では、参加者が自校での取組と関連付け、明日からの授業に生かせる協議を目指し、ブレイクアウトルーム機能を活用したグループ協議を行いました。

本大会に御協力、御参加いただきました皆様に、心より感謝とお礼を申し上げます。

共同研究については、理論提案の後、小学校・中学校それぞれ3回の授業実践を紹介しました。それらの実践では、主体的に学習に取り組み、学びを深める子どもを育む研究として、見方・考え方を働かせた単元デザインや学習活動の工夫を取り入れました。



実践発表者

授業者 齋藤 雅彦
幕別町立札内南小学校
第3学年 算数科



授業者 野村 知未
幕別町立幕別中学校
第1学年 英語科

参加者アンケートより

- 深い学びにつなげるためには、「見方・考え方」や明確な単元デザインの構想が重要であることを改めて感じた。
- 具体的な子どもの姿が明確で、参考になった。
- 実践紹介で、授業後の質問に子どもたちがしっかり答えていて、何を学んでいるのかを理解していくことが分かった。

単元デザインに関わる資料はQRコードからダウンロードできます。



研究の詳細は、本広報誌とともに届けました「研究紀要No215」を御覧



共同研究実践発表



研究協議での全体交流

編集後記

担当のオススメ本



「メシが見える大人になる！」
よのなかルールブック」の第2弾！ 厳しい時代を生きていく子どもたちに、テレビでおなじみの高濱先生が伝えたい50のことばが詰まった本です。子ども向けでありながらも、大人も自分の考えを見直すことができる一冊になっています。

「メシが見える大人になる！
もっとよのなかルールブック」
監修/高濱 正伸
絵/林 ユミ
出版社/日本図書センター

担当から

今年度は、一斉休校から始まり、毎朝の健康観察やソーシャルディスタンスの確保など、子どもたちの学びを止めないための取組に追われる一年となりました。正に、子どもも大人も「生きる力」を試されているように感じます。

4月からは、中学校においても新学習指導要領が全面実施となります。また、急速にGIGAスクール構想が進展し、1人1台配備された端末の活用がより注目されることでしょう。子どもたちの学びをより充実するための取組が、今後も重要なのだと思います。皆様にとって、今回の広報誌から一つでも役立つ情報を見付けていただけたと幸いです。

お忙しい中、原稿をお寄せいただきました先生方や関係者の皆様に感謝いたします。十勝教育研究所は、これからも先生方のお役に立てるような情報を発信し、多くの方々に読んでいただけるよう努めてまいります。

次号予告

紹介 採用校長・昇任教頭・ 新採用教職員の紹介

- ◇巻頭言 ◇教育現場への期待 ◇十勝教育研究所紹介
- ◇わたしの授業実践 ◇わたしの学級経営
- ◇共に学び共に育つ ◇健やかな心と体
- ◇教育情報 ◇日々徒然

十勝教育研究

令和3年3月号 第337号

発行所

十勝教育研究所

〒089-0531

北海道中川郡幕別町札内曉町290番地の2

TEL 0155-56-2331

FAX 0155-56-4260

印刷所

株式会社アド・プリント

北海道帯広市東3条南8丁目17番地

日々徒然つ

何気ない出来事に心を寄せ

時を超えるつながり

士幌町立士幌小学校

教頭 佐竹 宏子



昨年の2月に父が亡くなつた。その時お経をあげに来てくれた僧侶が、なんと20年前に担任したS君だった。彼の読経の声のよさとお説教のすばらしさに親族一同が感嘆した。彼も寺から割り振られた新規の檀家の名前に「もしかしたら先生の家?」と思いつつチャイムを鳴らしたという。

また、お気に入りの洋菓子店のパティシエが、こんな相談をもち掛けてきた。「先生、うちの子小学校2年生になつたというのに、真っすぐ学校に行かないで寄り道なんとしてるんです」。私が言う。「誰だつけ? 4年生の時、朝学校に来てないって、大騒ぎになつた人は?」。しばしの沈黙。「あ! それ私! この親にして、この子ありつてことですね!」。明るい彼女らしい反応にほつとしながら、「そういうこと。4年生で登校途中に寄り道している子だつて、こんなおいしいお菓子で人を幸せにして、その上、ちゃんと子育てしてるとだから心配しなくて大丈夫でしょ」と伝えた。

この頃、様々な場面で「時を超えたつながり」を感じることが多くなつた。懐かしくうれしい。この仕事をしていかなければ感じることのできない、自分が関わった子どもたちとの再びの出会い。一度切れたと思っていたご縁の糸が再びつながる瞬間。そんなうれしいプレゼントが私にもやつてくるなんて思いもしなかつた。ちなみに今の職場では、かつての児童と保護者が、同僚として働いている。こんなミラクルな環境は他にはないと思う。神様からのプレゼントだと思つて日々幸せに過ごしている。

コロナの中でキラリ

新得町立富村牛中学校

教諭 高橋 悠也



昨年の4月から念願がかない十勝で勤務することになつた。新型コロナウイルスがはやり出し、異例の卒業式で卒業生を送り出してからの赴任となつた。世の中に目を向ければ、多くの人が不安を抱えながら、日々の生活を送つていた。マスクの転売等が問題視され、政府によつてマスクの転売に関する規制が設けられた。

さて、そんな中スタートした私の十勝での教員生活。本校には委員会活動の一環として「ワクワクタイム」なるものがある。昼休みに小学2年生から中学3年生まで一緒に遊ぶ時間だ。その日は、外でドッジボールをやることになった。細かいルール等はない。「あれ? 大丈夫かな?」と思った。今の時代、けがの予防のために「首より上を狙うのは禁止」「中学生は小学校低学年に思い切り投げない」などのルールがあつてもおかしくなさそうだが。しかし、私の心配をよそに、小学生から中学生までが入り混じり、みんなで楽しくドッジボールをやつている。細かいルールがなくとも、首から上には当てないし、中学生は小学校低学年の子どもに本気でぶつけたりはしない。ルールに頼らずに、一人一人が考えて行動しているのである。

もちろん、多くの人が暮らす社会で、互いが気持ちよく生活するためには、ルールが必要だろう。しかし、ルールに頼つてしまい、自分たちで考えることをやめてはいけない。社会を回すルールの根底にあるのは相手を思いやる心なのだ。そんなことを子どもたちに教わつた気がする。コロナの中でも、暗い話題が多いが、キラリと光る子どもたちの姿から学ぶことは多い。



【酪農体験】

毎年、地域の方の御協力によって酪農体験を行っています。事前学習では、牛の一生についてのお話を聞き、命について考えます。

学校めぐり



幕別町立忠類中学校

■生徒数 48名(5学級)

■教職員数13名

本校は、小中一貫コミュニティ・スクール「ちゅうるい学園」としてスタートし2年目となります。小中学校間、学校と家庭・地域が双方向で協働し、子ども一人一人に生きる力を身に付けさせる活動に取り組んでいます。

「ちゅうるい学園」としての目指す子ども像は「人を思いやり チャレンジ精神に満ち 自ら学んでいく ふるさと忠類を愛する子ども」です。その子ども像に向かい教職員が一丸となって子どもたちに寄り添い、一人一人のよさや可能性を伸ばすよう教育活動を推進しています。



【ゆり根畠作体験】

忠類の特産品であるゆり根のつぼみ取り体験を、毎年3学年で行います。一人約2千個のつぼみを取ります。



【心が一つになった文化祭】

今年度、忠類中では学年ごとの文化祭になりました。3年生は「サイコーの学級」を目指して一人一人がすばらしい力を発揮しました。



【花いっぱい運動】

毎年、2学年で「忠類手づくりのまち」の方々と協力し、小学生と一緒に国道沿いに花を植えます。



HP QRコード



十勝教育研究所